キャンパスマスタープラン

CAMPUS MASTER PLAN

はじめに Introduction

大学キャンパスは、大学の「顔」であり、教育研究活動を支える基盤であるとともに、学生にとって学習の場、卒業生にとって母校の思い出の場となります。また、これから学ぼうとする人達や地域に暮らす人々にとっても魅力的であることが大切です。

成長と変化を続ける神戸大学において、教育･研究の内容にふさわしい施設を整備し、同時に、ゆとりと潤いのあるキャンパスを形成する必要があります。そのために長期的な視点に立った秩序ある施設整備を進めることが大切です。段階的な整備を進めるための方向を示し、キャンパスの有効な整備活用を図るためには、キャンパスの全体的･基本的な計画であるキャンパスマスタープランを策定する必要があります。

神戸大学が国際社会や地域社会の中でこれまで以上に魅力的に輝くキャンパスを創っていくための道しるべとして「神戸大学キャンパスマスタープラン」を策定します。

神戸大学 100 年記念館からの眺め

目次 Contents

1.キャンパスマスタープランの策定について
(1)キャンパスマスタープランの位置づけ 3
(2)キャンパスマスタープランの必要性 3
(3)キャンパスマスタープランの実現に向けて 3
(4)アカデミックプランについて 4
(5)これまでのキャンパス整備の経緯について 5

2.キャンパスマスタープランの方針とコンセプト
(1)キャンパスマスタープランの基本方針 6
(2) キャンパスマスタープランの整備・活用方針 6
(3) キャンパスマスタープランのコンセプト 7

3.8 つのキャンパスの将来計画
3-1.六甲台キャンパス 8
3-2ポートアイランドキャンパス 9
3-3.楠キャンパス（国際がん医療・研究センター含む） 10
3-4.名谷キャンパス 11
3-5.深江キャンパス 12
3-6.住吉キャンパス 13
3-7.明石キャンパス 14
3-8.大久保キャンパス 15

4. 8 つのキャンパスの部門別計画
4-1部門別計画の構成について 16

4-2部門別計画（キャンパス別） 17
4-2-1.六甲台キャンパス 17
(1)キャンパスの概要 17
(2)キャンパスの現状と課題・方針 18
(3)ゾーニング計画 19
(4)パブリックスペース計画 20
(5)キャンパス動線計画 21
(6)景観計画 22

4-2-2.ポートアイランドキャンパス 23
(1)キャンパスの概要 23
(2)キャンパスの現状と課題・方針 23

4-2-3.楠キャンパス（国際がん医療・研究センター含む） 24
(1)キャンパスの概要 24
(2)キャンパスの現状と課題・方針 24
(3)ゾーニング計画 25
(4)パブリックスペース計画 25
(5)キャンパス動線計画 26
(6)景観計画 26
(7)キャンパスの概要（国際がん医療・研究センター） 27
(8)キャンパスの現状と課題・方針 27
（国際がん医療・研究センター）

4-2-4.名谷キャンパス 28
(1)キャンパスの概要 28
(2)キャンパスの現状と課題・方針 28
(3)ゾーニング計画 29
(4)パブリックスペース計画 29
(5)キャンパス動線計画 30
(6)景観計画 30

4-2-5.深江キャンパス 31
(1)キャンパスの概要 31
(2)キャンパスの現状と課題・方針 31
(3)ゾーニング計画 32
(4)パブリックスペース計画 32
(5)キャンパス動線計画 33
(6)景観計画 33

4-2-6.住吉キャンパス 34
(1)キャンパスの概要 34
(2)キャンパスの現状と課題・方針 34
(3)ゾーニング計画 35
(4)パブリックスペース計画 35
(5)キャンパス動線計画 36
(6)景観計画 36

4-2-7.明石キャンパス 37
(1)キャンパスの概要 37
(2)キャンパスの現状と課題・方針 37
(3)ゾーニング計画 38
(4)パブリックスペース計画 38
(5)キャンパス動線計画 39
(6)景観計画 39

4-2-8.大久保キャンパス 40
(1)キャンパスの概要 40
(2)キャンパスの現状と課題・方針 40
(3)ゾーニング計画 41
(4)パブリックスペース計画 41
(5)キャンパス動線計画 42
(6)景観計画 42

4-3.部門別計画（キャンパス共通） 43
(1) エコキャンパス計画 43
(2) スペース有効利用計画 44

5. 優先して取組むべき課題について 45
5-1.優先して取組むべき課題について 45

6.資料
6-1.斜面地活用のケーススタディ 46
6-2.遺すべき景観とデザイン 47・48・49

1

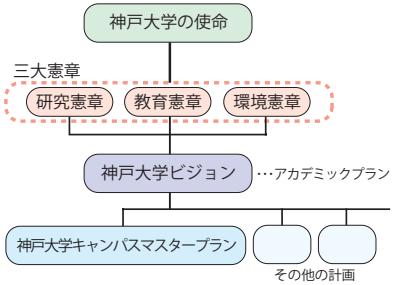
キャンパスマスタープランの策定について

1. キャンパスマスタープランの策定について

(1) キャンパスマスタープランの位置づけ

a. キャンパスマスタープランの位置づけ

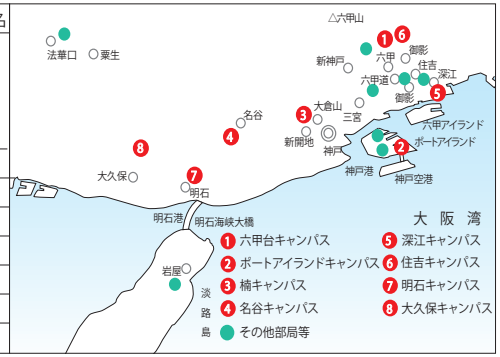
神戸大学キャンパスマスタープランは、アカデミックプランとなる神戸大学ビジョンの実現に向けた計画の１つとして、キャンパスの将来像を描き、学内外に共有することを目的に今後のキャンパス整備の方向性を示すものとして位置づける。



b. キャンパスマスタープランの対象キャンパス

本マスタープランは、学生・生徒・教員等が常時、教育・研究に取り組む場となる団地及び附属病院について策定する。

団地名	本マスタープラン上のキャンパス名
六甲台1	①六甲台キャンパス
六甲台2	
鶴甲1	
鶴甲2	
ポートアイランド３	②ポートアイランドキャンパス
楠,ポートアイランド２	③楠キャンパス（国際がん医療・研究センター含む）
名谷	④名谷キャンパス
深江	⑤深江キャンパス
住吉1	⑥住吉キャンパス
明石	⑦明石キャンパス
大久保	⑧大久保キャンパス



(2) キャンパスマスタープランの必要性

国立大学法人においては、アカデミックプランや経営戦略を踏まえつつ、教育研究環境の質的充実、老朽化する施設の安全性確保、環境負荷の低減、地域連携の強化、国際化の推進など施設整備に関して、取り組むべき課題が山積している状況にある。

また、大学の施設に対するニーズは、大学の教育研究方針、社会情勢、財政事情、国の方針等の変更により変化していくものである。大学の施設整備は、それらの変化に柔軟に対応し、継続的・計画的に実施されなければならない。

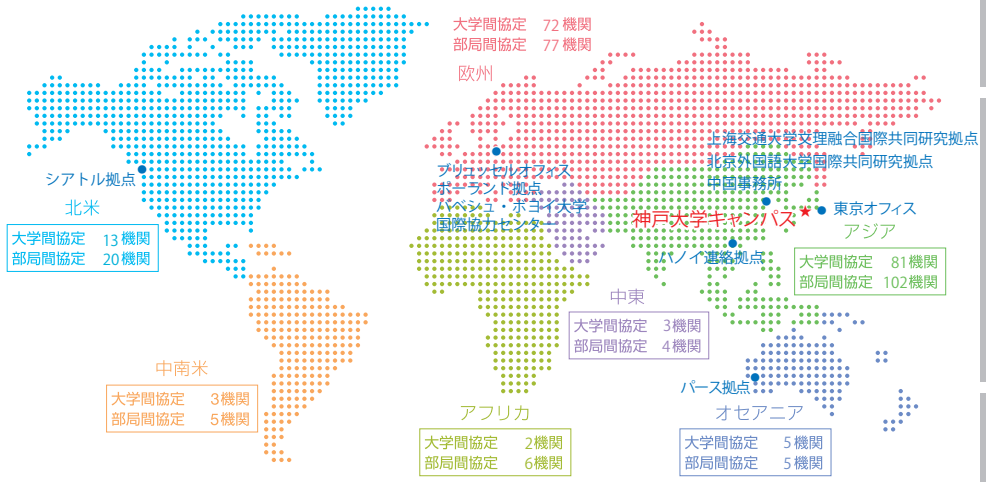
魅力的なキャンパス環境の形成を図るためには、キャンパス上の継承すべき資源の評価を含め、将来のアカデミックプランを見据えたキャンパス整備を推進するための道標となるキャンパスマスタープランを策定し、その未来像を学内外で共有することが重要である。

全国・世界とのつながり

神戸大学キャンパスマスタープランの対象は主要８キャンパスだが、神戸大学はその他部局等以外にも国内では東京に神戸大学東京オフィスを設置している。また国外にも、アジア地域には神戸大学中国事務所（北京）、ハノイ神戸大学連絡拠点（ベトナム）等、欧州地域には神戸大学ブリュッセルオフィス（ベルギー）、神戸大学ポーランド拠点（クラクフ）等北米地域にはシアトル拠点（アメリカ合衆国）、オセアニア地域にはパース拠点（オーストラリア）を設けており、世界との繋がりを強化し、情報収集や情報発信を行い神戸大学の国際化を推進している。

国際教育においても海外の大学等の教育研究機関との間で、大学間又は部局間の学術交流協定を締結し、双方の機関が学術及び教育上関心を持つ分野において、共同研究、教員の交流、学生の交流、情報交換等についての活動を促進している。

大学間学術交流協定締結（R3.11 現在）



(3) キャンパスマスタープランの実現に向けて

キャンパスマスタープランは、10年以上先を見越した長期計画を策定したものである。

今回の改訂により、長期的なキャンパス像の実現に向けて、大学の目標や計画を踏まえた中期的な視点で、大学の取り巻く状況の変化に対応する。

(4) アカデミックプランについて

○ 神戸大学の使命

神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成します。

○ 神戸大学ビジョン

「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」を目指して

神戸大学は、「学理と実際の調和」を建学の理念とし、進取と自由の精神がみなぎる学府である。「真摯・自由・協同」の学風のもと、真理の探究と社会実装を旨として学問の継承と発展に寄与し、人々の智と徳を高め、もって社会の基盤を築き、産業・経済を活発にするとともに、様々な社会的課題解決に貢献してきた。

この伝統を継承するとともに人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命医学系諸分野における強みを社会に活かし、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを神戸大学長期ビジョンとする。すなわち、様々な国内外での連携・共創を高い次元で推進し世界最高水準の異分野共創型教育研究拠点を構築して本学の力を最大限に発揮・挑戦し、現代及び未来社会の課題を解決できる優秀な人材育成と新たな知と価値創造によりイノベーションを創出し、超高齢化、ポストコロナ、知識集約型デジタル社会に貢献する。
教育においては、持続可能なこれからの新しい社会を豊かに生きるための多様性、国際性、卓越性と柔軟性に富んだ教育を重視する。AI、IoT、ビッグデータ解析、ICT 基盤をもとに本学の知的資源を最大限に活用し、新たな価値を創造し社会実装できる有能な人材を養成する。そのために、文理の枠を超え社会と協働し産官学共創による知識、能力、技術の実践的教育、価値創造教育、さらに数理データサイエンス教育を推進する。

研究においては、独自性を重視し、知的活動や創造力によって真理を探究する基礎科学研究、あるいは、地域社会と共創した応用科学研究を遂行する。国際性と先進性のある神戸という地域に根差し、世界を見据えた本学に対する社会の期待に応えるべく、産業界、自治体等と共創し世界を牽引する開かれた卓越研究拠点を構築して、先端研究で優れた知とイノベーションを創出し、それらを社会に還元することにより SDGs が掲げる地球的諸課題の解決を目指す。さらに、多元化・複雑化・流動化するポストコロナ時代の社会構造や学術動向にも対応し得る適応力としなやかで強靭な継続的成長を促す持続力の強化により、研究力を高めレジリエンスのあるイノベーションエコシステムを構築する。

そして、構成員一人ひとりが、教育研究・業務に持てる力を最大限に発揮できるダイバーシティ＆インクルーシブな環境づくりに取り組むとともに、学長のリーダーシップのもとガバナンスと経営の創造的改革により堅固で柔軟性の高い自律的な研究教育経営基盤を確立し、神戸大学全構成員の力を結集して学術研究・教育の未来を切り拓く。

＊神戸大学の三大憲章

(ⅰ) 研究憲章

神戸大学は、深く真理を探究して新たな知を創造する学術研究の拠点として、その固有の使命と社会的･歴史的･地域的役割を認識し、日本国民及び人類に貢献する責務を遂行するために、ここに神戸大学研究憲章を定める。

（研究理念）
1. 神戸大学は、学術研究の発展を通して、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に寄与することを基本理念とする。
（研究目標）
2. 神戸大学は、研究理念に基づき、次の目標を掲げる。
(1) 新たな知見を切り開く独創性を重視し、人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する。
(2) 国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かし、学術研究の国際的な交流と連携の拠点として求心的な役割を果たす。
(3) 多様な研究組織を擁する総合大学として、多彩な専門研究を発展させるとともに、連携・融合により新たな学術領域を開拓する。
（研究体制）
3. 神戸大学は、研究理念と研究目標を達成するため、次の体制を構築する。
(1) 学術研究の自由と独立を擁護する。
(2) 研究者の自立性と自発性に基づく研究を尊重するとともに、協同のもとに研究を戦略的に展開する。
(3) 研究活動を真摯に点検し、研究体制の改善につとめる。
(4) 次世代の優れた研究者を養成するとともに、研究成果を広く社会に還元することにより、社会に発展に寄与する。
（研究倫理）
4. 神戸大学は、学術研究に係る行動規範を遵守し、社会の信頼と信託に応えうる研究活動を遂行する。

(ⅱ) 教育憲章

神戸大学は、国が設置した高等教育機関として、その固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識し、国民から負託された責務を遂行するために、ここに神戸大学教育憲章を定める。

（教育理念）
1. 神戸大学は、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界平和に貢献するために、学部及び大学院で国際的に卓越した教育を提供することを基本理念とする。
（教育原理）
2. 神戸大学は、学生が個人的及び社会的目標の実現に向けて、その潜在能力を最大限に発揮出来るよう、学生の自主及び自立性を尊重し、個性と多様性を重視した教育を行うことを基本原理とする。
（教育目的）
3. 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かしながら、次のような教育を行う。
(1) 人間性の教育：高い倫理性を有し、知性、理性及び感性の調和した教養豊かな人間の育成
(2) 創造性の教育：伝統的な思考や方法を批判的に継承しつつ、自ら課題を設定し、創造的に解決できる能力を身につけた人間の育成
(3) 国際性の教育：多様な価値観を尊重し、異文化に対する深い理解力を有し、コミュニケーション能力に優れた人間の育成
(4) 専門性の教育：それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担うことの出来る、深い学識と高度な専門技能を備えた人間の育成
（教育体制）
4. 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、その教育目標を達成するために、全学的な責任体制の下で学部及び大学院の教育を行う。
（教育評価）
5. 神戸大学は、教育理念と教育原理が実現され、教育目標が達成されているかどうかを不断に点検・評価し、その改善に努める。

(ⅲ) 環境憲章

（基本理念）
神戸大学は、世界最高水準の研究教育拠点として、大学における全ての活動を通じて現代の最重要課題である地球環境の保全と持続可能な社会の創造に全力で取り組みます。
私たちは、山と海に囲まれた地域環境を活かして環境意識の高い人材を育成するとともに、国際都市神戸から世界に向けた学術的な情報発信を常に推進し、自らも環境保全に率先垂範することを通して、持続可能な社会という人類共通の目標を実現する道を築いていくことを約束します。
（基本方針）
1. 環境意識の高い人材の育成と支援
大学の最大の使命は人材の育成にあります。
私たちは、地球環境や地域環境への影響を常に意識して行動する人材を養成するために教育プログラムを絶えず改善し、人文・社会・自然科学の知見を統合して、環境に対して深い理解をもつ人間性豊かな人材を国際社会や地域社会と連携して育成することに努めます。
2. 地球環境を維持し創造するための研究の推進
地球環境を保全し、持続可能な社会を創造するためには、さまざまな課題を克服する研究成果の蓄積が必要です。
私たちは、環境問題に関する個別分野の研究と関連分野を統合した学術的な研究の双方を推進し、その成果を世界と地域に向けて発信することに努めます。
また、このような研究成果を国際社会と地域社会の発展に具体的に結びつける活動を支援します。
3. 率先垂範としての環境保全活動の推進
地球環境を保全するためには、ひとりひとりの行動が大切です。
私たちは、日々の活動を通じて、環境を守り、エネルギーや資源を有効に活用し、有害物質の管理を徹底することによって、環境に十分配慮したキャンパスライフを率先します。
さらに、環境保全活動の情報を開示し、関係者とのコミュニケーションを通じて、継続的な改善に努めます。

1. キャンパスマスタープランの策定について

(5) これまでのキャンパス整備の経緯について

キャンパス整備の経緯

平成 16 年の国立大学の法人化以前の神戸大学のキャンパス整備は、国の方針に基づく「国立学校施設長期計画書」に基づいて行われてきた。その整備方針は、スペースの拡充を目的としたいわゆる箱もの建築の新築整備が主であり、新たな研究分野の発足に併せた二次的な単体整備を重ねてきたことで、キャンパス敷地内の建築ボリュームは飽和状態に近づいていった。

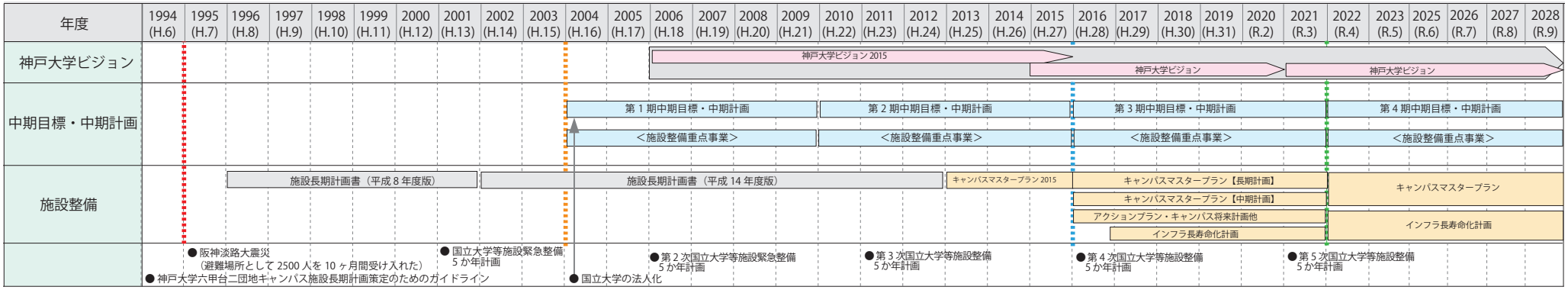
平成 7 年に起こった阪神淡路大震災によって、キャンパス整備の方向性は防災という観点を更に強くもつようになった。実際に震災後のキャンパスには 2500 人が 10 ヶ月間避難していたという実績があり、地域の防災拠点としてのキャンパスの役割が重要視されていった。

平成 16 年 4 月の国立大学の法人化以降においては、大学の特性を発揮しつつ、一法人として自立可能な経営戦略が求められ、神戸大学では第 1 期及び第 2 期の「中期計画」を策定した。

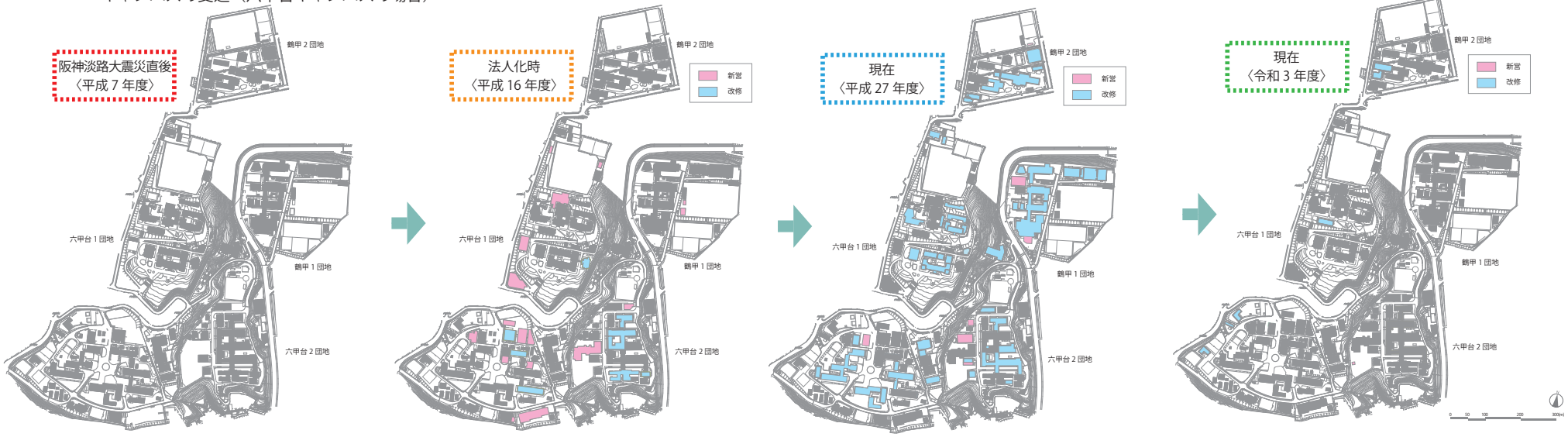
その目標・計画に則り「国立大学等施設緊急整備 5 か年計画」を踏まえて、全学的なマネジメント体制のもと、耐震化の促進、老朽施設の更新、既存施設の有効利用等、既存建物の大規模改修を主とした整備を計画的に行ってきた。

その後も、「国立大学等施設整備 5 か年計画」や、新たな「神戸大学ビジョン」が示されたことにより、見直しが行われた。

今回新たに示された「神戸大学ビジョン」を踏まえ、現状の神戸大学キャンパスの課題を明確にし、課題解決に向けた計画を提示することとなった。



キャンパスの変遷（六甲台キャンパスの場合）



2

キャンパスマスタープランの方針とコンセプト

2. キャンパスマスタープランの方針とコンセプト

(1) キャンパスマスタープランの基本方針

平成 23 年 3 月 28 日　環境・施設マネジメント委員会　承認

キャンパスマスタープラン策定の基本方針

教育･研究環境の質的充実、老朽化する施設の安全性の確保、環境負荷の低減、地域との連携強化など、大学を取り巻く課題やニーズに適切に対応しつつ良好なキャンパス環境の形成を図るため、法人化以前に策定していた「施設長期計画書」にかわるものとして、「キャンパスマスタープラン」を策定する。

Ⅰ. 国際化の推進

世界の「知」を集め、新たな「知」を世界に向けて発信する国際的拠点大学の１つとして国際社会から認知される大学を目指します。

Ⅱ. キャンパス環境の充実

教育・研究の展開に対し柔軟に変化可能なキャンパスを持つ魅力ある大学を目指します。

Ⅲ. 伝統と緑と人の共生

歴史的足跡を現在に伝える貴重な財産・自然豊かなキャンパスとして認知される大学を目指します。

(2) キャンパスマスタープランの整備・活用方針

Ⅰ. コミュニケーションを活性化するキャンパス整備

教育者・研究者・学生間のコミュニケーションを推進するキャンパスづくりを目指す。

Ⅱ. 地域社会やグローバル社会に開かれたキャンパス形成

地域文化の核となり国際化を推進し、優れた人材を惹きつけるキャンパスづくりを目指す。

Ⅲ. 自然環境・立地を活かしたキャンパス整備

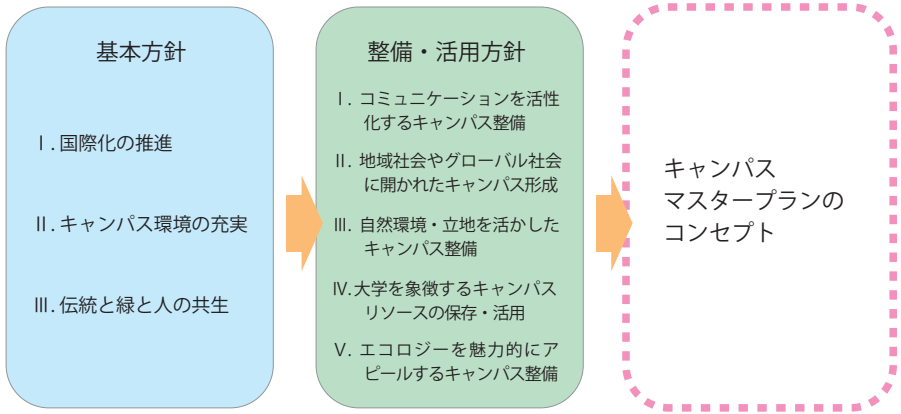
海と山に囲まれ、眺望と自然環境に恵まれた立体的な段上の土地形態を活かしたキャンパス整備、周辺環境と一体となった魅力的なキャンパスづくりを目指す。

Ⅳ. 大学を象徴するキャンパスリソースの保存・活用

歴史的保存建物・緑地・ロケーション等、キャンパス内の貴重な資源、名所等の保存及び公開活用を推進し、利用者の記憶に残る魅力的なキャンパスづくりを目指す。

Ⅴ. エコロジーを魅力的にアピールするキャンパス整備

エネルギー消費量、CO 削減等の環境負荷低減及び利用者のエコロジー意識の向上にも寄与するキャンパス整備を進め、エコロジカルキャンパスを目指す。



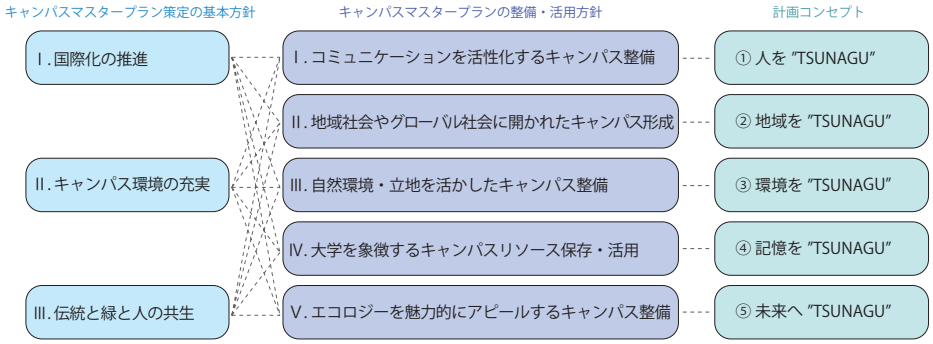
(3) キャンパスマスタープランのコンセプト

" TSUNAGU "　～ つなぐ

神戸大学キャンパスマスタープランは " TSUNAGU "（つなぐ）を計画コンセプトとする。

大学のキャンパスは、大学の「顔」であり、教育研究活動を支える基盤であるとともに、学生にとって学習の場、卒業生にとって母校の思い出の場となる。また、これから学ぼうとする人達や海外からの留学生、地域 に暮らす人々にとっても魅力的であることが大切となる。

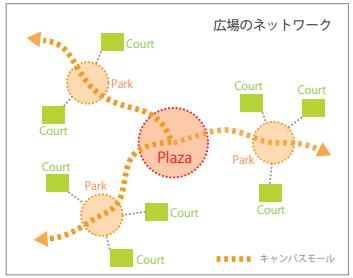
神戸大学キャンパスマスタープランは、「キャンパスマスタープランの整備・活用方針」に対応した 5 つの " TSUNAGU "（つなぐ）をコンセプトに、人と人、大学キャンパスと地域、周辺環境の緑、人々の記憶、「歴史」から「現在」そして「未来」へ " TSUNAGU " を実現する。



《キャンパスマスタープラン策定の基本方針、整備・活用方針とコンセプトの関係》

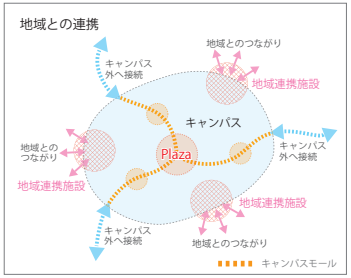
① 人を "TSUNAGU"

- 屋外に性格の異なる大小の広場を計画的に配置することにより、憩いと潤いの場を提供し、研究の合間のリフレッシュ、学生同士や学生と先生のコミュニケーションをサポートする。
- 歩行者専用の路を整備し、既存のキャンパス内歩行者路と繋げることで快適な歩行路ネットワークを構築する。
- ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが快適に利用できるバリアフリーな万人とつながるキャンパスを目指す。



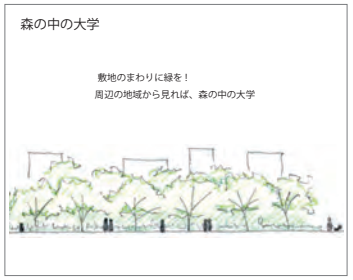
② 地域を "TSUNAGU"

- 大学キャンパスと地域のインターフェースとして地域連携施設を整備する。地域の人々が気軽に立ち寄ることのできる地域開放の図書館・ホール・店舗などの施設整備を行う。
- Plaza を「地域にある高台の防災広場」として整備し、災害時の避難広場としての利用を想定し、地域貢献を目指す。
- キャンパスモールをキャンパス外にも接続し、地域の人々の散策路として開放する。



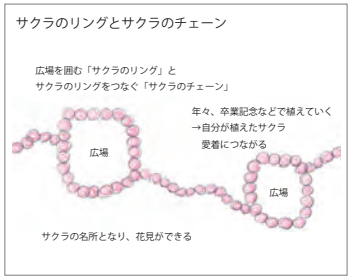
③ 環境を "TSUNAGU"

- キャンパス内の緑を保全し、さらにキャンパスの周囲及び内部に新たな緑化をすすめ、周辺の緑とつないでいくことで緑あふれるキャンパスを目指す。
- 既存のサクラ並木を延長し、繋いでいくことで、サクラのリングとサクラのチェーンを整備する。そこは花見の名所となり、多くの人々が集うキャンパスとなる。



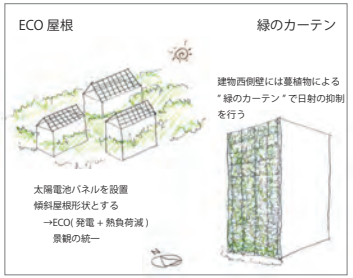
④ 記憶を "TSUNAGU"

- キャンパス内の並木、サクラのリングやサクラのチェーンは、卒業記念の植樹等で整備することで、卒業生の在学の記憶、大学への愛着としてキャンパスに刻まれ記憶をつなぐ。
- 建物外観や屋外環境の色・素材等に関して、デザインの統一・整理を行い、神戸大学らしい記憶に残るキャンパス空間を目指す。



⑤ 未来へ "TSUNAGU"

- キャンパス内の歴史的建造物や景観建築物を整備し広く公開する。神戸大学の歴史を現在につなぎ、さらに未来へとつないでいく。
- エコロジカルデザインを推進し、地球環境保全のための循環型キャンパスを目指し、かけがえのない地球を未来につないでいく一端を担う。
- 交易都市である神戸に設立された大学として、教育・研究・人材など世界につなぎ、国際化を推進する。



3

８つのキャンパスの将来計画

3. 8 つのキャンパスの将来計画

3-1. 六甲台キャンパス（六甲台１・六甲台２・鶴甲１・鶴甲２団地）

将来計画

“５つの TSUNAGU (つなぐ) ” を実現するキャンパスマスタープラン

六甲台１団地

- 国登録有形文化財の保存と利用及び一般公開
- 地域連携ゾーンとしてのアカデミア館の利用
- キャンパス間の高低差をつなぐ為の整備（③）
- 社会科学総合研究ゾーンの整備 (⑧)
- 教員・研究者・学生の交流スペースとしての Park、Court の整備
- キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- 緑化駐車場・緑化駐輪場の整備
- 既存緑地の保全、viewpoint での眺望の保全

六甲台２団地

西部ゾーン

- 地域連携ゾーンとしての地域開放施設の整備（⑨）
- 教員・研究者・学生の交流スペースとしての Plaza、Park、Court の整備
- キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- 駐車場・駐輪場の整備
- 既存緑地の保全、viewpoint での眺望の保全

中央ゾーン

- 眺望広場の整備（⑤）
- 高低差を利用した眺望広場等メディアゾーンの整備（⑥）
- 大学本部ゾーンの整備（⑦）
- キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の横断対応
- 駐車場の整備
- 既存緑地の保全、viewpoint での眺望の保全

東部ゾーン

- 東側傾斜地の有効利用（④）
- 教員・研究者・学生の交流スペースとしての Plaza、Park、Court の整備
- キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- 駐車場の整備
- 既存緑地の保全、viewpoint での眺望の保全

鶴甲２団地

- 新学部の機能・役割を発揮させるために既存老朽施設のリノベーションを推進（⑩）
- 教員・研究者・学生の交流スペースとしての Plaza、Park、Court の整備
- キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- 駐車場・駐輪場の整備
- 既存緑地の保全

鶴甲１団地

- 地域及び学生の利用を想定したゾーンの整備（①）
- 教員・研究者・学生の交流スペースとしての Plaza、Park、Court の整備
- キャンパスモール「上のみち」「下のみち」の整備
- 駐車場・駐輪場の整備
- 既存緑地の保全、viewpoint での眺望の保全
- キャンパス内移動の快適性及び安全性の向上を図るとともに、キャンパスの高低差を解消しユニバーサル動線の確保を推進（②）及び教育環境を活性化させる体育館の整備

3. 8つのキャンパスの将来計画

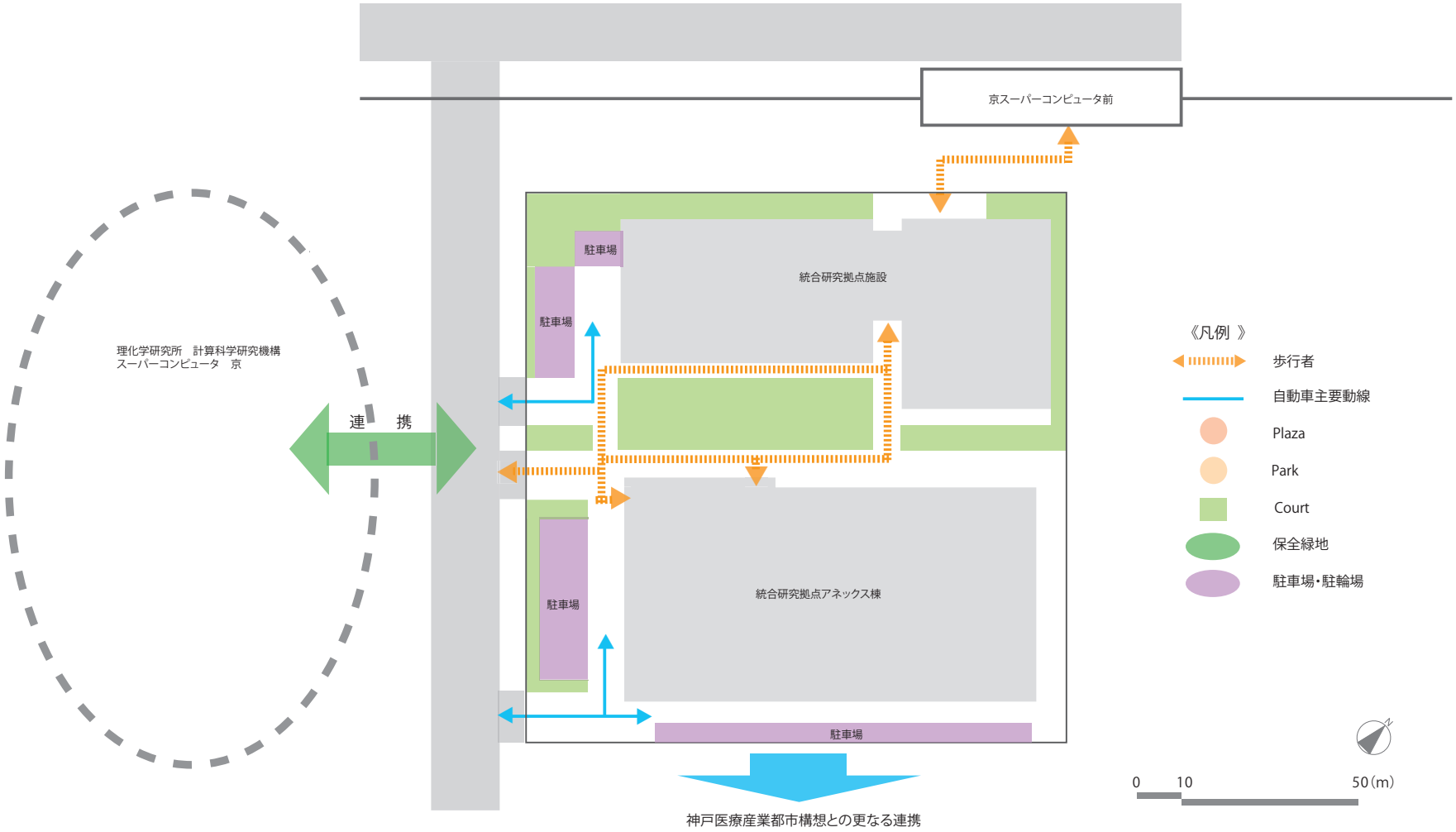
3-2. ポートアイランドキャンパス

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

ポートアイランドキャンパス

- 神戸医療産業都市構想との連携の強化
- 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合との先端的な研究開発及び人材育成への対応



3. 8つのキャンパスの将来計画

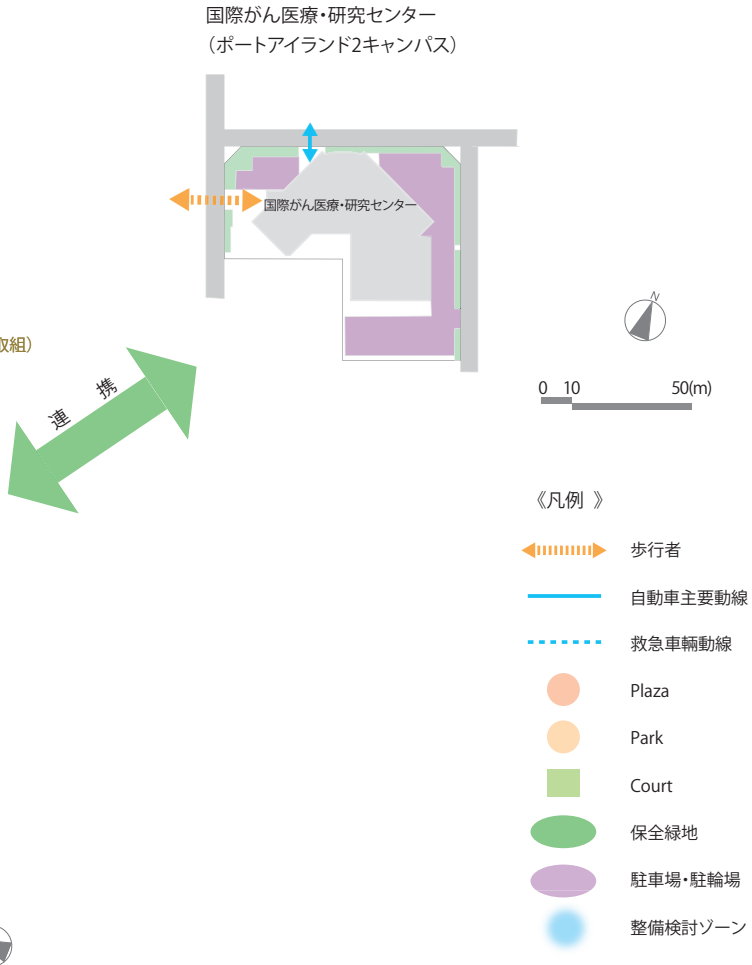
3-3. 楠キャンパス（国際がん医療・研究センターを含む）

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

楠キャンパス（国際がん医療・研究センターを含む）

・継続的に医療等の変化に対応していく上で必要なスペースを確保するために特定行政庁（神戸市）と協議の上、地区計画の指定を受け、容積率の最高限度が緩和された（300%→400%）
・容積率の最高限度の緩和のため、敷地周辺に空地を確保
・病院敷地と医学部敷地をつなぐ公共用歩廊の検討（①）
・神戸市景観計画区域内に位置するキャンパスとして大倉山公園、国道428号線、及び景観形成道路等の周辺施設と一体となった景観を整備
・神戸医療産業都市との連携の強化



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-4.名谷キャンパス

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

名谷キャンパス

- Plaza,Parkの整備
- 地域住民と積極的に交流してきた経緯から、食堂を中心にオープンカフェへ整備する等、南側緑地を中心とする、地域連携エリアの整備と、市民開放を検討（①）
- ユニバーサルデザインに基づいた構内通路、設備・サイン整備の推進
- 駐輪場の増設及び集約整備（②）
- 歩車分離を行うための施設整備と動線計画
- 敷地をとりまく豊かな緑との連携を考慮した、緑化を主としたエコロジカルなランドスケープの実現を目指す

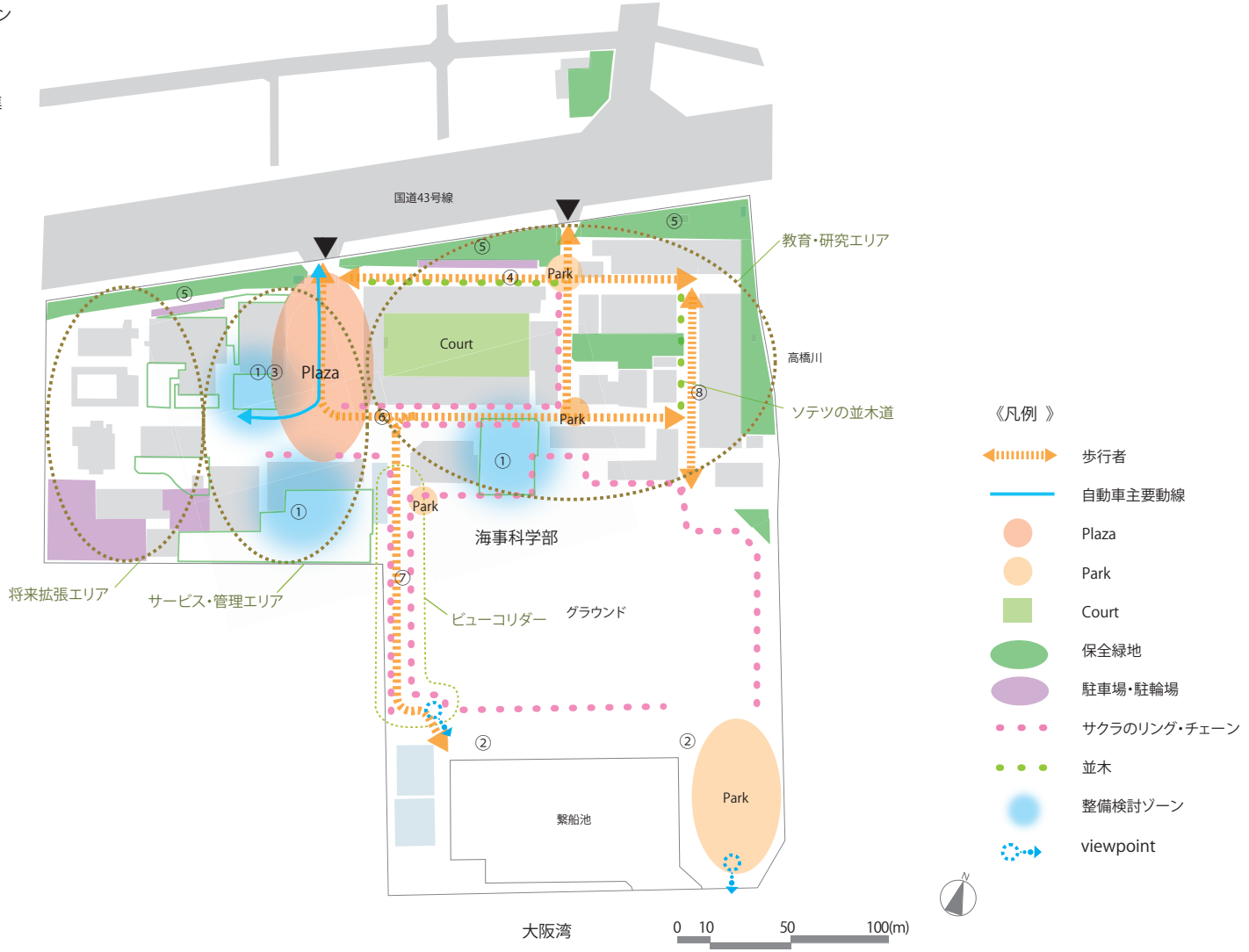
3-5. 深江キャンパス

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

深江キャンパス

- キャンパスの機能向上、施設の老朽化の解消及び有効活用の促進等に向けた教育研究スペース等の集約・整備（①）
- Plaza,Park,Courtの整備
- 繋船池周辺を一般開放し、キャンパスの活性化を図るゾーンとして保全（②）
- 地域公開・地域利用の継承（③）
- ユニバーサルデザインに基づいた設備・サイン整備の推進
- 海に面した敷地から、津波などの災害への対策を検討
- キャンパス北側の、東西を移動する通路の整備（④）
- これまでに形成されたすぐれた配置計画の継承と保全
- 国道43号線沿のバッファゾーンとして、既存緑地の保全・整備（⑤）
- キャンパスを東西に貫く通路をメインコリダーとして位置づけ整備（⑥）
- ビューコリダーを桜並木のプロムナードとして整備（⑦）
- ソテツの並木道を整備・継承（⑧）
- ビューポイントの保全
- 避難誘導設備（防災無線、案内掲示板）の整備



3. 8つのキャンパスの将来計画

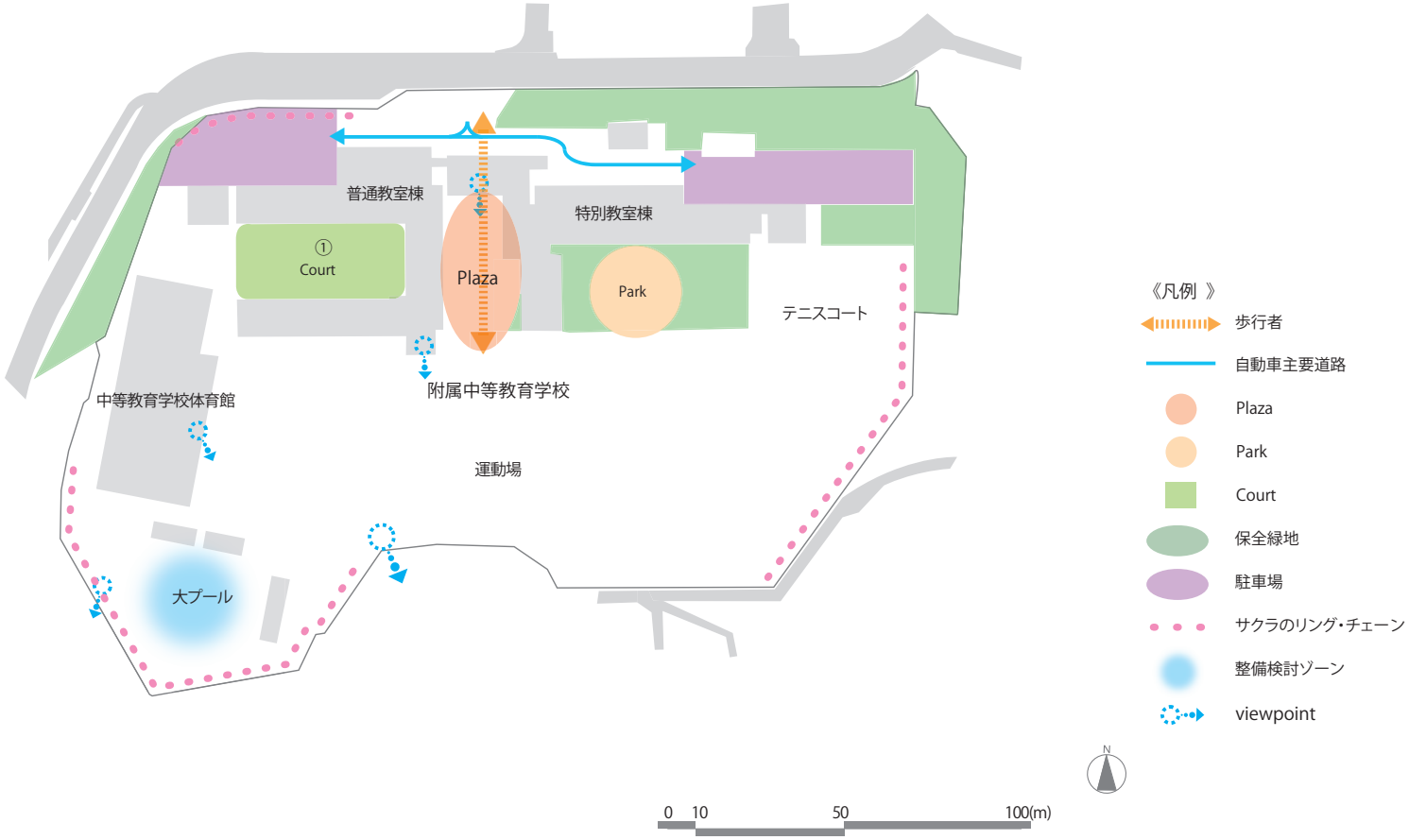
3-6.住吉キャンパス

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

住吉キャンパス

- 六甲山南端に位置するキャンパスの立地を考慮し、周辺の斜面・緑地等維持・保全
- 閑静な住宅街にある立地から、災害時には、避難所として機能するよう整備
- 生徒の安全を確保しつつ地域交流を図る
- サクラを植樹し、リングチェーンを形成
- 歩車分離の方策を、交通整理員の配置を含め検討
- 普通教室棟の中庭をCourtと位置づけ保全・整備（①）
- Parkの整備
- 大プール等の屋外体育施設の老朽化対策
- ビューポイントの保全



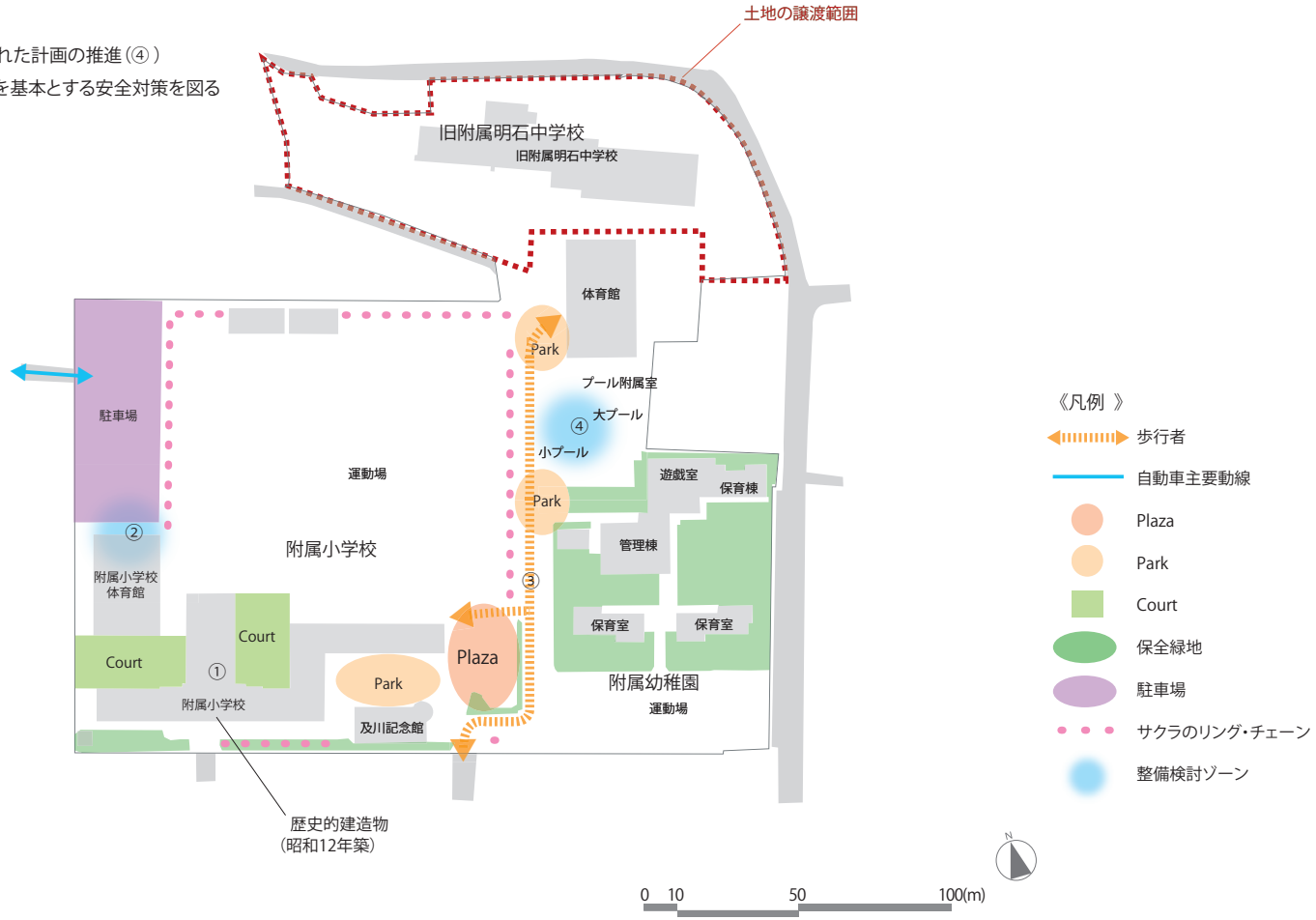
3-7. 明石キャンパス

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

明石キャンパス

・明石団地の土地の一部及びの建物の一部を譲渡検討
・戦前の歴史的建物である小学校舎の保全と整備を行い地域への開放を検討（①）
・ランチルーム、厨房等の移転整備を検討（②）
・Plaza,Parkの整備
・既存の桜並木の保全と、積極的な植樹を行い、サクラのリングチェーンを形成
・ユニバーサルデザインに基づいた設備・サイン整備の推進
・津波他、災害時の避難所機能の整備と高台である旧附属明石中等教育学校体育館への円滑な動線の整備（③）
・プールの老朽化に対処するため近隣施設の利用を視野に入れた計画の推進（④）
・駐車場を集約整備し、機能的な車両動線を確保し、歩車分離を基本とする安全対策を図る



3. 8つのキャンパスの将来計画

3-8. 大久保キャンパス

将来計画

"５つのTSUNAGU（つなぐ）"を実現するキャンパスマスタープラン

大久保キャンパス

- 木々や現存する緑のアンジュレーションを生かしコートと位置づける（①）
- 地域連携ゾーンとして日常生活訓練施設の促進（②）
- 石ヶ谷公園をはじめとする、周辺の豊かな緑との調和を考慮した緑地の保全・整備
- ユニバーサルデザインに基づいた動線計画、設備・サイン整備の推進
- サクラを植樹し、敷地と施設の配置を生かし、二重のサクラのリングチェーンを形成
- 明石の土地に根ざした（モモ・クリ・カキ・グミ等）日本古来の品種を植樹
- 日常生活訓練施設南側は、地域交流空間として位置づけ既存教育園を継承・整備（③）
- 地域子供支援センターの増築（④）
- 運動場の老朽化対策

4

８つのキャンパスの部門別計画

4. 8 つのキャンパスの部門別計画

4-1. 部門別計画の構成について

キャンパスマスタープランのコンセプト 5 つの"TSUNAGU（つなぐ）"を実現するための方策を様々な観点から検証すべく部門別に計画する。

（i）キャンパスの現状と課題・方針

キャンパスの位置や規模、歴史、利用状況等の現状を確認した上で、キャンパスの全体フレームを俯瞰し、課題や方針を模索する。

（ii）ゾーニング計画

キャンパスの機能ゾーニングの現状を踏まえ、将来に求められる新たな機能を示し、それをどのようにゾーニングするのか、その方向性を示す。

（iii）パブリックスペース計画

キャンパス全体のアメニティ向上及びコミュニケーションの活性化を図り、防災用の空地にもなり得る公共性豊かなオープンスペースの配置を検討し、そのあり方を示す。

（iv）キャンパス動線計画

高低差の多いキャンパス構内において、どのようにして安全･安心かつ機能的な交通路を確保するかを検討し、キャンパス毎の歩車交通のあるべき形を示す。

（v）景観計画

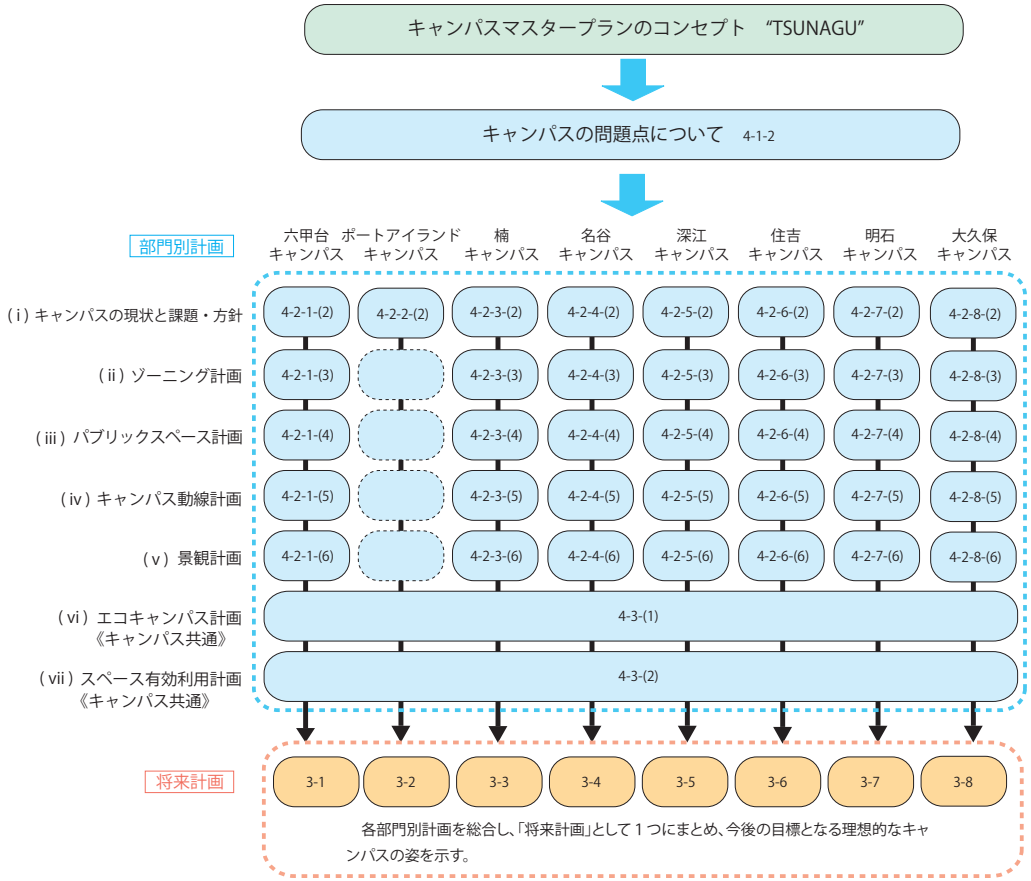
六甲山系につながるキャンパス内の現状の豊かな緑地を地域の大切な緑の資源と捉え周辺の緑地とつなぎ保全・継承していくその方針を示す。また、神戸大学ならではのランドスケープを創出するための方向性を示す。

（vi）エコキャンパス計画

地球環境への配慮があらゆる組織に対する社会的義務として現在求められている。大学キャンパスは多くのエネルギーと資源を消費する場となっているため、その大きな負荷を低減する取り組みが必要である。自然エネルギーの有効利用をも含んだ省エネルギー化、省資源への配慮、地球環境への配慮、循環型社会への取り組み等を推進していく方針を示す。

（vii）スペース有効利用計画

大学の教育研究は時代と共に変化するため、大学施設の維持管理・運営においては、経営的視点を踏まえた戦略的な施設整備と共に、既存施設有効活用の観点から維持管理を行うことが重要である。



4. 8 つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画（キャンパス別）

4-2-1. 六甲台キャンパス（六甲台 1・六甲台 2・鶴甲 1・鶴甲 2 団地）

(1) キャンパスの概要

六甲台キャンパス（六甲台地区）は 4 つの近接する団地によって構成され、大学設立当初より神戸大学の拠点となっている。立地については六甲山系と神戸港の間に広がる自然資源の豊富な南向きのなだらかな斜面に位置する眺望豊かなキャンパスであると同時に、神戸市街地にもアクセスしやすく、非常に立地に恵まれたキャンパスである。総合大学のメインキャンパスとして各学部の学生等が活発に活動するキャンパスであるが、キャンパス周囲は閑静な住宅地が大半を占めており、「静」と「動」との共生が常に求められる環境下にある。

■ 六甲台キャンパスの概要データ（ R3.5 現在 ）

①六甲台 1 団地

- 位置：兵庫県神戸市灘区六甲台町 2-1
- 学部等：法学部、経済学部、経営学部、経済経営研究所、国際協力研究科、社会科学系図書館
- 敷地面積：105,588 ㎡
- 建物延面積：54,670 ㎡
- 建ぺい率／容積率：15.0%／ 52.0%
- 人口：約 3,960 人

②六甲台 2 団地

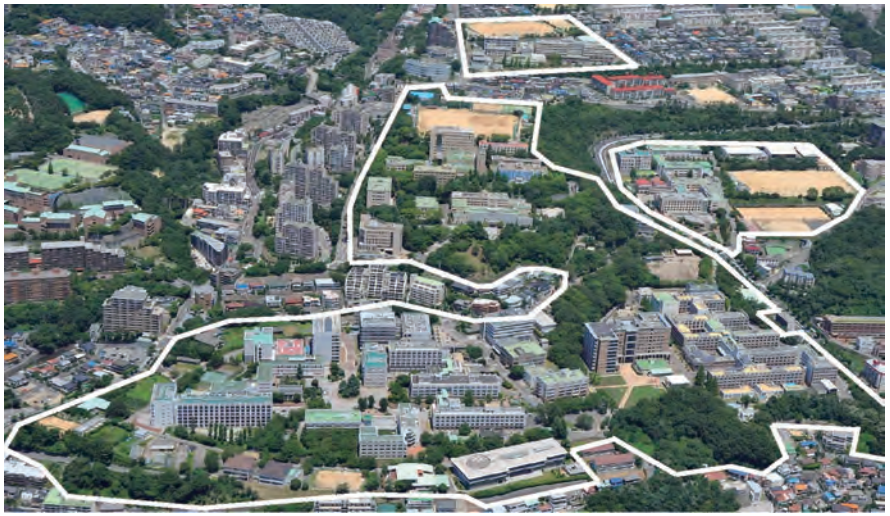
- 位置：兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1
- 学部等：事務局、文学部、理学部、農学部、工学部、自然科学系先端融合研究環他
- 敷地面積：215,770 ㎡
- 建物延面積：149,794 ㎡
- 建ぺい率／容積率：20.0%／ 69.0%
- 人口：約 6,200 人

③鶴甲 1 団地

- 位置：兵庫県神戸市灘区鶴甲 1-2-1
- 学部等：大学教育推進機構、国際人間科学部
- 敷地面積：68,347 ㎡
- 建物延面積：42,597 ㎡
- 建ぺい率／容積率：24.0%／ 62.0%
- 人口：約 3,090 人

④鶴甲 2 団地

- 位置：兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
- 学部等：国際人間科学部
- 敷地面積：45,863 ㎡
- 建物延面積：24,676 ㎡
- 建ぺい率／容積率：17.0%／ 54.0%
- 人口：約 1,140 人



■ 地域地区等（神戸市都市計画他）

- 第 1 種中高層住居専用地域（60/200）
- 特別用途地区（文教地区）
- 高度地区
- 宅地造成工事規制地域

神戸市都市計画図（用途地域図）

キャンパスフレーム図

4. 8つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画（キャンパス別）

4-2-1. 六甲台キャンパス（六甲台 1・六甲台 2・鶴甲 1・鶴甲 2 団地）

(2) キャンパスの現状と課題・方針

I. 現況キャンパスが持つ資源

キャンパス資源プロット図

現況調査による資源発掘

○登録有形文化財が現存する
登録有形文化財の建物が 5 棟現存する
周囲は植栽の管理も行き届いている.etc

○六甲山の麓ならではの優れた景観・眺望
階段の上からの眺望は格別である
大きな木々があり、道路沿いの景観に一役買っている.etc

○自然+計画による木々や緑地
株立ちの木々が茂っており、気持ちの良い歩道
広い緑地空間がある.etc

○整備された広場・パブリックスペース
ウッドデッキ仕上の歩行者専用ウリボーロード
ポケットパーク的ミニパブリックスペース.etc

現況キャンパスが持つ資源は、エリアごとの特色
・登録有形文化財が現存し、景観・眺望に優れたエリア
・豊かな緑の資源に恵まれたエリア
・優れた景観・眺望がえられるエリア

II. 現況キャンパスが抱える問題点

キャンパスの問題点プロット図

現況調査による問題点抽出

○交通計画や動線計画による
アクセス性や斜面地の適切なレベル処理の問題
ハンプ両脇の歩行路にバイクや車が駐車されている
六甲台1団地←→六甲台2団地のアクセスが悪い
バイクや車でのアクセスに危険性が高い.etc

○優れた景観・眺望を活かせていない
中庭の景観の整備がされていない（建物は良いが）
ViewPointなのに神戸の景色が見えない.etc

○緑地や植栽帯の計画性
植栽の種類に統一感がない（針葉樹はミスマッチ）
屋外空間が豊かに利用できてない.etc

○広場やパブリックスペースの活用
中庭空間が有効に利用されていない.etc

○意匠性・統一性などの整備方針のばらつき
各学部の「顔」となる部分やファサードがない
建物が壁のように建ち、良い景観とはいえない.etc

III. 現況キャンパスとマスタープランの課題

現況キャンパスの持つ資源、問題点の両面から、将来へと引き継ぐべき良いところ、解決していくべき課題として、いくつかの計画的テーマに基づいた課題があげられる。

1　ゾーニング・施設整備（景観、意匠）課題
緑地や木々、登録有形文化財建物を活かし、歴史・自然・地域と折り合う
意匠性、景観性に富んだ表情によるキャンパスの顔づくり
エリアごとの特色あるゾーニング計画とサイン計画

2　パブリックスペースの活用（コミュニーケーション）課題
パブリックスペース、オープンスペースの維持管理と景観整備
眺望と緑地を活かした神戸大学らしい繋がるパブリック（コミュニケーション）スペースづくり

3　交通ネットワーク課題
交通ネットワークの見直しによる歩行者にやさしいキャンパス空間
斜面地におけるユニバーサルデザイン計画
歩車両方での各施設やキャンパスへのアクセス性の向上
キャンパス内の高低差が大きく、バリアフリー動線が分断されている

4　緑地計画
緑地を活かした魅力ある歩行者路の整備
山の木々と調和する植栽計画

5　その他
公道や近隣住宅に崩落の恐れがある急傾斜地があり、一部が未対応
老朽化している施設について、施設機能を改善するための計画が必要
課外活動施設の在り方について、検討が必要
学部再編による新学部設置への対応が必要

IV. 課題への取り組みビジョン（方針）

上記課題に対し、キャンパスマスタープランでは、斜面地という条件や素晴らしい眺望が得られる立地の特性、豊かな自然、整備されたパブリックスペースなどの資源を活用し、六甲山麓に構える豊かなキャンパス像を長期的な視点で創造していく計画を目指す。

4. 8 つのキャンパスの部門別計画

4-2. 部門別計画（キャンパス別）

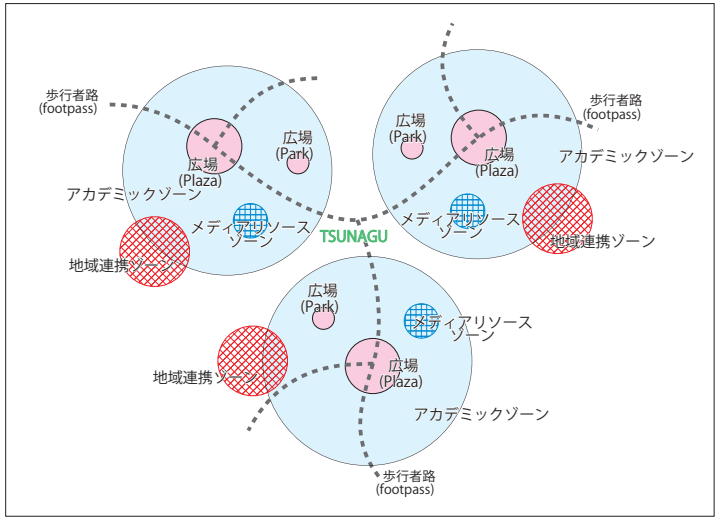
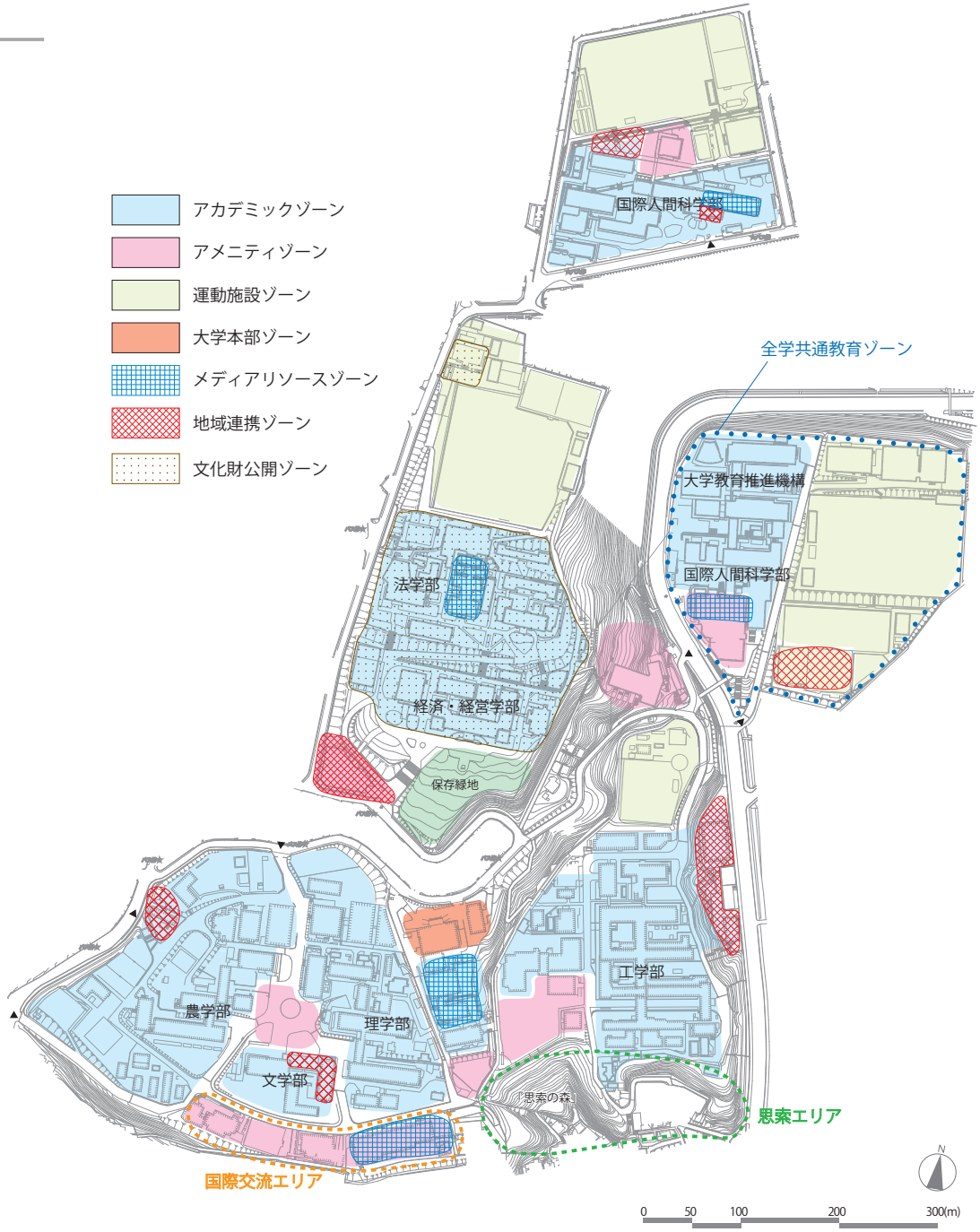
4-2-1. 六甲台キャンパス（六甲台 1・六甲台 2・鶴甲 1・鶴甲 2 団地）

(3) ゾーニング計画

六甲台キャンパスは既に機能上まとまったゾーン構成となっており、複数のゾーンが有機的につながりクラスター配置を形成しているところが、六甲台キャンパスの特徴である。将来的にはこれらのクラスターを基本としつつ、相互のつながりを発展させ、各ゾーン相互の関係、地域との関係を深めていくため、必要な機能を付加していくことが求められる。

地域に開かれたキャンパスを実現化するため、公道に面した主要ゲート付近に地域交流のためのインターフェイスとして地域連携ゾーンを設け、施設を地域に開放し、地域とのつながりを図る計画とする。

新たに、メディアリソースゾーンとして図書館を中心に、神戸大学が保有する文献や学術資料を集積した施設の整備について、その規模、施設内容や場所の快適性を更に高める計画を行い、新たな「知」を世界に向けて発信する国際拠点大学の１つとしてふさわしい「知」の集積地点の創造を目指す。



ゾーニングのダイアグラム